

# 国文学研究資料館報

第41号

平成5年9月

## 春夏秋冬信

佐竹昭廣

小山弘志館長の後任として、本年四月一日着任、四月五月は挨拶回り・館外の会議などに追われ、館内の業務に従事できるようになったのは六月頃からであるから、実際はまだ日が浅い。

これまでは外部から接触していただけた国文学研究資料館であったが、いざ内部の人間になってみると、当館について殆ど何も知らずにいたことに気付いた。

創立以来二十年という歳月は決して自然に流れ来たり、流れ去った時間ではなかった。市古貞次初代館長・小山二代目館長、及び歴代職員の努力が結実して、着実に成果を集積しつつあること、コンピュータ部門の新戦力がようやく実戦機能を発揮し出している現

状は、おそらく創立当初の構想を遙かに上回るものがある。

細川家拝領屋敷造園の名残を留める館の景観は何時眺めても飽きない。春は池の面に漂う落花、岸辺の菖蒲が紫の影を映す初夏、驟雨のさざ波、月見灯籠の上にひねもす付む鷺一羽。池を主題にした「国文研八景」を描くことができそうである。自然は芸術を模倣するというなら、窓外の風景はまさに福田平八郎の日本画さながら、やがて訪れる冬景色が待たれてならない。

景観がここまでの風格を整えるためには何百年の歳月を要したように、当館の過現未もまた同様であらう。悠々として急ぎ、現状と未来に即した充実を図りたい。

### 目次

春夏秋冬信	佐竹昭廣	1
お知らせ		2
文獻資料部事業報告	松野陽一	3
研究情報部事業報告	新井栄蔵	5
整理閲覧部事業報告	本田康雄	8
新収資料紹介		10

利用者へのお知らせ		11
巻頭		12
評議員・委員等名簿		13
人事異動		17
平成五年度秋季学会開催一覽		18

館内の実情については、まだ印象の域を出ないが、事務官はもとより、教官側も部長から室員まで相当の激務らしく、研究時間は必ずしも十分とは言えないように見受けける。「国文学研究資料館」とは「国文学」・「研究資料」の「館」であると同時に、「国文学」・「研究」と「資料」の「館」という役割をも重視すべきであると私は理解する。「研究条件」は早急に改善される必要があると思う。「ゆとり」の無い研究は、所詮、漱石の言う「上滑り」の域を出ない。

「研究条件」の改善には、必然的に「研究環境」の改善を伴う。書庫の収容空間も限界まで来ているし、研究室・事務室・作業室・大小会議室・コンピュータ室等すべてが不足している。事情は史料館に關しても全く変わらない。当地においては増築も改築も許されない以上、否応なしに、移転問題を真剣に検討する時機に来てい

ることを自覚し、積極的な準備にかかる方が現実には即していると思う。共同利用機関として大学院教育の一翼を担おうにも、教室一つ持たない現状では動きが取れない。しかし、現状を慨嘆しているばかりでは何も開けて来ない。まず、可能なことから着手することだ。その一つとして、大学院生を対象とする夏期セミナーを試験的に実施してみることとなった。八月二十三日から四日間、関東地区の各大学から募った計十名の院生を対象に、国文の三部長と史料館長（森安彦教授、八月一日付就任）によって行われた原典購読セミナーは、一応成功裡に終えることができた。来年度以降、講師を交替しながら継続し、将来の大学院教育に備えるつもりである。

海外からの客員研究員として、今年度は、コロンビア大学のバーバラ・ルーシウ教授を迎え、金沢文庫・京都東福寺からも調査の便

宜を受けつつ、共同研究が行われている。ルーシユ氏が、十五年前、「奈良絵本国際研究会」を主催された功績は大きい。現在、当館が、チェスター・ビーズ・図書館の奈良絵本類を調査することができるようになっているのも、昔年の同氏の努力の余恵と、同館潮田淑子氏の御力添えの賜である。

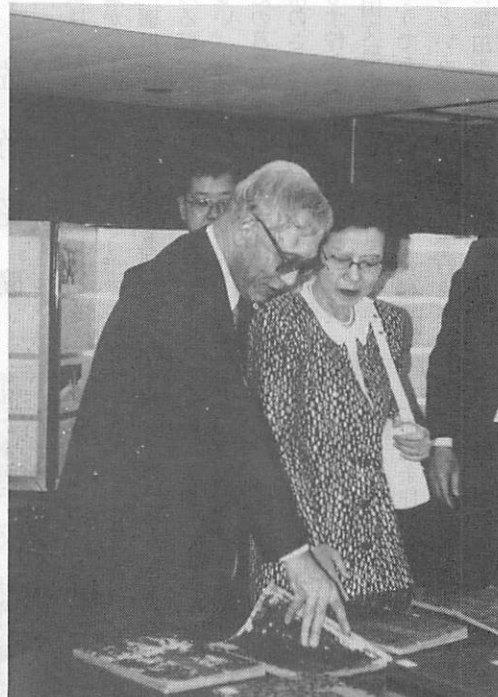
今年の海外調査は、オランダ・ベルギー・フランスを対象とした。海外調査は先方の都合や内部事情もあって、必ずしも順調とは言えないが、何よりも彼地の日本文学研究者と交流を深める絶好の機会である。当館にも外国語に精通した研究者が欲しいと切実に思った。語学に堪能な事務官も遠からず不可欠となって来るだろう。

年明けて、来年三月末には、新井栄蔵研究情報部長、本田康雄整理閲覧部長の二人が停年退官となる。資料館三部長の内、一度に二人までが抜けるとは厳しすぎる現実であるが、これも「定め無き世の定め哉」と惜別する外はない。長年にわたる両部長の貢献に心から敬意と謝意を表する。

(十月九日記)

## 森山文部大臣 国文学研究資料館を視察

森山文部大臣は、五月十九日、国文学研究資料館を訪れた。佐竹館長、各部長ら資料館幹部の出迎えを受け、館長室で館の概要や課題などについて説明を受けた後、館内の展示室、閲覧室、電子計算機室や史料館などを熱心に視察した。大臣に、柴山学術情報企画官らが同行した。



## 文部省の雨宮官房審議官(学術国際局担当)が国文学研究資料館を視察

雨宮官房審議官は、九月一〇日、上田学術情報企画官とともに国文学研究資料館を訪れた。館長室で館の概要や課題などについて説明を受けた後、館内の展示室、閲覧室、電子計算機室や史料館などを熱心に視察した。

## 夏期原典購読セミナーを初開催

当館では、今年度新たに、大学院生を対象にした夏期原典購読セミナーを、八月二十三日(月)から二十六日(木)の四日間開催した。このセミナーは、当館が蒐集した諸資料の原典に直接触れてもらい、一人一人に「読む」ということについての根源的な思索をもたらす契機となることを目標に開催したものであり、九大学から一〇人の大学院生が受講した。

講師は、当館の松野、新井、本田、森の各部長がそれぞれ次の題目により一人三コマ(一コマ九〇分)を担当した。

○松野文献資料部長・「千載集」前後

○新井研究情報部長・国文学と書道

○本田整理閲覧部長・「浮世風呂」「浮世床」を読む

○森史料館長・近世村人の一生

なお、今年度は準備期間の関係もあり関東近辺の大学院を対象としたが、来年度からは、その範囲を拡大する予定である。

## 文献資料部事業報告

松野陽一

平成五年度は、五月十四日に開

いた第一回の収集計画委員会で調

査・収集の大綱を決め、引き続い

て五月二十五日の調査員会議（総

会）で具体的な打合せを行って作

業に入ることとなった。その総会

では杉谷寿郎客員教授の講演「定

家の本文」があり、懇親会も昨年

に引き続いて盛会のうちに終了し

た。

近年は調査個所が激増して百ヶ

所を越える状態になっている（十

年前の二倍である）ので当初計画

ではかなり絞ったが、結局は昨年

年度並みになって予算上はかなり

苦しい。調査員の方々は大学にお

勤めの方が多いので、夏休み期間

に調査に行かれる場合が多い。そ

の成果である調査カードは既にか

なり集まりつつある。有難いこと

である。

平成四年度国文学文献資料調査・

収集の概況

一、調査

平成四年度は、本年三月末まで

に一〇六個所の所蔵資料一〇一一

一点を調査した。

北海道東北地区（順不同、敬称略、一部省略。以下同じ）

北海学園大学附属図書館（北郷文庫）・伊達市開拓記念館・弘前市立図書館・弘前大学附属図書館・八戸市立図書館・岩手県立図書館（新渡戸文庫）・秋田県立秋田図書館・東北大学附属図書館（狩野文庫）・仙台市民図書館・仙岳院・昭和町郷土文化保存伝習館・酒田市立光丘図書館・福島県立図書館・初瀬川文庫

概ね順調に継続調査をしているが、函館市立図書館は都合で一年だけ取りやめた。

関東地区

茨城県立歴史館・筑波大学附属図書館・流通経済大学附属図書館（祭魚洞文庫）・埼玉県立文書館・東京芸術大学附属図書館・同（脇本文庫）・宮内庁書陵部・法政大学能楽研究所・明治大学附属図書館（毛利文庫黒川本）・三井文庫・東京大学文学部国文学研究室・東洋文庫・東京都立中央図書

館（加賀文庫他）・尊経閣文庫・横浜開港資料館・川崎市市民ミュージアム

横浜開港資料館が新規。川崎市市民ミュージアムの池上本はこれで完了。

中部地区

新潟大学附属図書館（佐野文庫）・黒川村公民館・糸魚川市歴史民俗資料館・高岡市中央図書館・金沢大学附属図書館・福井市立図書館（松平文庫）・小浜市立図書館・山梨県立図書館・長野県短大附属図書館・上田市立図書館（花月文庫）・諏訪市立図書館・小布施町教育委員会（鴻山文庫）・名古屋大学附属図書館（神宮皇学館文庫）・名古屋市蓬左文庫・名古屋博物館・名古屋市鶴舞中央図書館・愛知県立大学附属図書館・愛知大学附属図書館（菅沼文庫）・中京大学図書館・大須文庫・西尾市立図書館（岩瀬文庫）・神宮文庫・尾鷲市立中央公民館・後藤重郎

後藤本は新古今集の写本・版本を中心とした歌集のコレクション。並行して収集も完了した。

近畿地区

正教蔵文庫・水口町立図書館・夢

望庵文庫・京都大学附属図書館（平松家本）・京都大学文学部（顯原文庫）・京都府立総合資料館・陽明文庫・同（特殊本）・声庵文庫・智恩寺・奈良女子大学附属図書館・大阪女子大学附属図書館・大阪天満宮・高野山大学図書館・温泉寺・白鹿記念酒造博物館・篠山鳳鳴高校

陽明文庫は例年通りの他に、指定本の調査に入った。

中国・四国地区

岡山大学附属図書館（池田文庫）・ノートルダム清心女子大学附属図書館・正宗文庫・広島市立中央図書館・羽中山八幡文庫・光藤葆光・三原市立図書館・山口女子大学附属図書館・岩国徴古館・西門寺・萩市立図書館・益田家・鎌田共催会図書館・善通寺・大洲市立図書館・八幡浜市立図書館・徳島県立図書館（森文庫）・文六寺・高知県立図書館（山内文庫）

開館以来待望のノートルダム本の調査に入った。正宗文庫は予備調査。

九州地区

佐賀某家・祐徳稲荷神社（中川文庫）・長崎県立長崎図書館・島原図書館（松平文庫）・松浦史料

館・厳原郷土資料館・熊本市立図書館・臼杵市立図書館・佐伯市教育委員会・沖縄県立図書館・石垣市立八重山博物館

対馬の厳原本は緊急調査で、二七〇点を一気に。佐伯は毛利藩本を含む予備調査。

## 海外

パリ国立図書館・チェスター・ティン図書館・リール市立図書館・デュボワ氏・コレージュ・ド・フランス日本学高等研究所

海外科研究費による調査（九月、三月）で、チェスター・ティンは完了。五年度中に日英両文の目録解題を刊行の予定。リールはレオン・ド・ローニー蔵書の調査。

## 二、収集

本年三月までに左記の五三箇所所の蔵資料五、一二九点を収集した。

## 北海道東北地区

北海学園大学附属図書館（北郷文庫）・弘前市立図書館・盛岡市中央公民館・宮城学院女子大学附属図書館・酒田市立光丘文庫・鶴岡市立郷土資料館

## 関東地区

茨城県歴史館・矢口丹波記念館・東京芸術大学附属図書館・同（脇本文庫）・宮内庁書陵部・法政大

学能案研究所（鴻山文庫）・東洋文庫・東京都立中央図書館（東京誌料）・尊経閣文庫・川崎市市民ミュージアム

## 中部地区

新潟大学附属図書館（佐野文庫）・高岡市立中央図書館・石川県立図書館（李花亭文庫）・加賀市立図書館（聖澤文庫）・金沢市立図書館（藤本文庫）・上田市立図書館（花月文庫）・同（花春文庫）・名古屋市鶴舞中央図書館・名古屋市蓬左文庫（尾崎コレクシ

ョン）・愛知県立大学附属図書館・大須文庫・名古屋博物館・新城市教育委員会（牧野文庫）・西尾市立図書館（岩瀬文庫）・後藤重郎

## 近畿地区

正教蔵文庫・夢望庵文庫・京都大学附属図書館（平松家本）・京都大学文学部（頼原文庫）・陽明文庫・芦庵文庫・園部町教育委員会（小出文庫）・大和文庫・大阪女子大学附属図書館・白鹿記念酒造博物館・温泉寺

中国四国地区  
三原市立図書館・岩国徴古館・益田家・鎌田共催会図書館・善通寺・香川某家・四国大学附属図書館（凌霄文庫）・高知県立図書館

## （山内文庫）九州地区

熊本大学附属図書館（北岡文庫）・臼杵市立臼杵図書館  
海外

## 海外

カリフォルニア大学バークレイ校  
このうち、宮城学院本、後藤氏本は四年度で完了。佐野文庫・李花亭文庫・鎌田共催会・善通寺などが新しくスタートした。

平成五年度文献資料調査収集計画

本年度は、調査一一六箇所（海外を含む）一〇、一二五点、収集六三箇所（同）六、〇六一点の計画を立て、順次実行に移している。

金沢文庫・天理図書館の調査に着手。仙台市民図書館・初瀬川文庫・山梨県立図書館・杵築市立図書館の収集が始まる。

海外資料の調査・収集

本年度から二年計画で、ライデン大学・新ルバン大学・リール市立図書館・パリ国立図書館等の調査を九月十六日から十七日間、松野、進藤、樹下、辻本が出張して行う計画である。収集は右の諸館の外、カリフォルニア大学バークレイ校が予定されている。

## 第四室

本年度は客員教授として日本大学文学部杉谷寿郎教授が着任し

た。平安朝の歌書、古筆手鑑類の調査のほか、特定研究の書誌学用語の整理などにも参加していただいている。併任助教授は、前期は大阪大学文学部の天野文雄助教授、後期は九州大学文学部の今西裕一郎助教授にお願いしている。

## その他

地区会議は、中部地区は名古屋市、九州地区は福岡市で、それぞれ十一月下旬に予定している。

特定研究の「古典籍学の確立、体系化のための研究」は五年計画の四年目、古典籍学用語集の作成作業を中心とし、全体で八章より成る「辞典」作成を計画して、そのうち五章までの「見出し語」案を調査研究報告一四号に掲載した。別に奥書刊記集成などの作業も進めている。館外研究者との第一回会合を七月十四日に行った。

三月三十一日付で深沢眞二第三室助手が和光大学文学部に転出。四月一日付で和田恭幸助手が後任として着任した。

調査研究報告第一四号は三月三十一日付で編集刊行され、表紙模様集成など十本の研究報告を集録した。

（文献資料部長）

# 研究情報部事業報告

新井 栄 蔵

四月一日から、国文学論文目録データベースのオンラインサービスを開始し、大過なく運用が出来ている。小山館長の総指揮のもとでの全館の努力の結晶である。特に、データベース室の中村助教授・相田助手、情報処理室の安永教授、原助教授、北村助手の献身的な尽力の賜物である。国文学界の研究・教育に多大の寄与があるものと考えられる。

既にオンラインサービスを実施しているマイクロ資料目録データベース、和古書(当館所蔵)目録データベース(データベース作成・更新は整理閲覧部担当)の経験に学びつつ第三のデータベースオンラインサービスが開始出来たことになる。

本年度は、又、各々に業務上の主たる担当を持っている既設の四室、すなわち、国文学研究情報の収集を担当する情報資料室、「国文学年鑑」を担当する情報分析室、国文学データベースの運用を担当するデータベース室、汎用電子計

算機の運用を担当する情報処理室の各室に加えて、国文学に関する情報の処理システムおよびその運用並びに国文学データベースの作成運用の長中期的な観点を含む開発研究を主として担当する客員部門として、四月一日付けで研究開発室が設置され、客員教授として神奈川大学知識研究所長の藤原鎮男教授が任用された。本邦最初の實用大規模データベースのケミカルアブストラクト構築の中心となつてデータベース作成・運用の経験を蓄積して来られた知識を今後の国文学データベース作成・運用に生かしたいとの意図によるものである。なお、研究開発室長は慣例により研究情報部長が兼務している。

各室の業務については以下のごとくである。

## 情報資料室

第十六回国際日本文学研究集会を、当館創設二十周年を記念し、十一月十二日、十三日、十四日に開催した。例年より規模を拡大し

た集会であったが、一三九名の参加者があり、成功裡に集会を終えた。これについては館報四十号に詳述したので、ここでの報告は省略する。

新聞情報掲載の国文学関係記事の収集は、夏休みに多数のアルバイト用員を確保し、いっせいにを行った。これによつて従来の遅れは取り戻せたが、アルバイト各人の間で、仕事にばらつきを生じ、問題を残した。次年度からは、やはり一人の手で行う方針で、継続しての仕事が期待できるシルバー人材を確保することとした。

館報は例年どおり二回発行し、三十九号に「国際日本文学研究集会について」を掲載、この集会の意義・特色・問題点などについて記した。

## 情報分析室

情報分析室の最大の業務である「国文学年鑑」平成三年版の編集を完了し、予定通り平成五年三月末に刊行することを得た。昭和六十一年度から導入したCTS(コンピュータライズド・タイプセッティング・システム)作成システムがほぼ順調に機能するようになり、ここ三年間は、年度末の三月末の

刊行がようやく可能となった。平成三年版の概要はほば次の通りである。

## ○雑誌紀要・論文集所載論文

件数 一〇、九七六件

○新聞所載論文目録 三五件

○学会一覽 四〇学会

○学会研究発表一覽 六八七件

○新指定文化財目録 二一件

○平成二年度文部省科学研究費等交付一覽 三〇九件

○受賞一覽 五六件

○計報 三六件

○単行本目録 一、九三四件

○収載雑誌紀要一覽一、〇六三件

○翻刻・複製一覽 一、〇二八件

○執筆者索引 七、二二三人

総ページ数は、平成二年版より四〇ページ増の七〇六ページとなった。また発行所による価格もついに一万円を超えた。ページ数及び価格の増大傾向は、国文学研究者の年々の増大と学際的な研究の増加動向からみて今後も変わらないと見込まれ、年鑑作成上、なんらかの対応を考慮すべき時期にきていると考えられる。

この問題を含め、研究情報部内における分析室の将来をにらんだ場合考えられる大きな課題として

は、前年度の本報告にもあげた  
おり、

- 1 論文データのコンピュータ  
初期入力化の問題
- 2 年鑑横組み化の問題
- 3 外国における国文学関係論  
文の扱いの問題
- 4 ページ数増大と価格への対  
処

といった問題がある。当面は、文  
献目録委員会などで、機会を見つ  
けてはこうした課題について検討  
を加えており、また可能な点につ  
いては分析室内で部分的な実験を  
行う準備を進めている。

#### データベース室

平成四年度は四月一日より国文  
学論文目録データベースのオンラ  
イン・サービスを開始した。デー  
タは昭和五十八年から平成元年ま  
での七分分で、六七、二五〇件を対  
象としている。

利用申請者、利用度数はオンラ  
インサービス開始当初より順調に  
伸び、館外の利用者数は平成四年  
度末現在二百名を越えている。ま  
た、利用者のさらなる増加が見込  
まれるため、各種質問に備えて、  
実際にあった質問を中心に組み立  
てた「国文学研究資料館データベ

ースオンラインサービス利用案  
内」も作成した。

国文学論文目録データベースの  
追加データ作成の方は、平成四年  
度は汎用機の総入れ替えを後半に控  
えているので、追加データの作  
成・データベース更新のタイミン  
グを前半に傾斜させて実行した。

平成四年度は、平成二年（デー  
タ数一〇、二九四）と昭和五六  
（同六、一八四）・五七（同六、  
八七一）年の三ヶ年分（同二三、  
三四九）のデータベース化を實施  
した。

データベースの作成は、論文デ  
ータの本体に関わる作業と、論文  
データを検索にかけるための作業  
とがあり、検索にかけるための作  
業は、検索のためのデータ作りの  
作業と、システムの作業とに大  
別される。

資料館の論文目録データベース  
は、論文の標題から論文のキーワ  
ードを切り出しているが、切り出  
しのためにはハビネスというシス  
テムソフトを採用している。ハビ  
ネスには現代文の分かち書きを主  
目的に基本辞書が用意されており、  
それだけでは、専門用語が多用さ  
れる論文標題を十分に切り分ける

ことはできない。したがって、基  
本辞書以外に利用者辞書を用意し、  
そこに固有名詞や専門用語を登録  
して分かち書きに参画させる。そ  
うすることによって、登録された  
専門語彙もキーとして切り出され  
てくる仕組みになっている。

本来、国文学の論文のタイトル  
に出てくるであろう語彙の総数を、  
最大値で見積もればいかにほとん  
どであろうか。古典籍の書名を尽  
くす必要があるとすれば国書総目  
録の全項目を網羅しておきたいと  
ころである。かりに全部でなく部  
分でもいいということになると、誰

がどういう基準で部分を作るかが  
大問題になる。多分、全部入れる  
何倍もの人的労力を必要とする。  
近現代の作家名・作品名も尽くす  
必要があろう。古典に関わる人名  
も半端な数ではない。地名・寺社  
名も必要である。一般専門語彙も  
必要であるからということになる  
と、大きい国語辞典・古語辞典を  
全部入力しておいても足りない。  
ざっと見積もっても数十万はすぐ  
に越えてしまう。これに同義語レ  
ベルのばらつきを考え、「古今和歌  
集」「古今集」「古今」などをカバ  
ーし、表記レベルのばらつきとし

ての旧字体と新字体、カタカナ表  
記、ひらかな表記をカバーし、さ  
らに上位概念の「三代集」「八代集」  
「二十一代集」「勅撰集」「和歌集」  
などを手当てして検索の実を上げ  
ようということになると、これは  
空前のデータ量になってしまう。

また、この空前のデータを、コン  
ピュータ辞書として機能させるた  
めのソフトウェアも、まだ開発さ  
れていないのが現状である。ハビ  
ネスの利用者辞書も、実際の性能  
からみて数万件が限度であらう。

検索のところに關わるデータは、  
以上のように考えるだけでもお分  
かりいただけるように、どう頑張  
ってみたところで満点はない作業であ  
り、限られた人力と限られた予算  
の中でどの程度の可能な作業を組  
み、どの程度の結果を生みだし、  
どの程度の評価が得られるかを考  
え、データベース室は常に頭を悩  
ましている。

平成四年度は検索効率の向上を  
考え、キーワード切り出しのため  
に不可欠なハビネス利用者辞書の  
充実のために、一定程度の作業を  
組んだが、これは、検索のための  
データ作りの作業に当たる。この

作業は、全体のデータ量の大きさから言って、少なくとも三年以上の継続がなければ、改善が目に見えてこない。

最後に、第二回国文学データベース研究集会についてご報告をしておく。

期日は十月二日。午後一時半から、以下の三本の講演と約一時間のフリートーキングを行い、約四十名の参加を得て、充実した研究集会となった。

1) 個人研究のためのデータベース — 特に歴史史料を扱うについて —

彦根城博物館 五島邦治氏

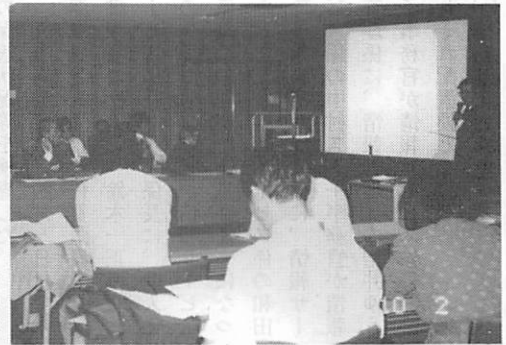
2) 連歌のデータベースの研究動向

山梨県立女子短期大学 両角倉一氏

3) 日本古典文学作品本文データベースの諸問題

国文学研究資料館 安永尚志氏

なお、平成五年十月一日に第三回国文学データベース研究集会を予定している。内容等については、「国文学データベース研究集会報 第二号」を参照されたい。



第二回国文学とコンピュータ研究集会

#### 情報処理室

情報処理システムの運用・運転を除く平成四年度事業は、以下のように実施した。

##### 1 情報処理システムの更新

日立製作所製「HITAC M—660Hシステム」から同「M—860/60システム」にレベルアップを行った。これにより、CPU性能の向上、主記憶容量や磁気ディスク容量の増加、LANインターフェース装置等の新しい機器の導入を行った。また、懸案であった情報機器用電源設備工事を行った。

##### 2 図書館情報システムの導入

日立製作所製BIBLIONを導入し試行運用を開始した。

##### 3 目録作成

定常的な業務として、

①国文学研究資料館蔵マイクロ資料目録(一九九二)

②国文学研究資料館蔵和古書目録(増加5)

の版下作成を行った。

##### 4 データ作成等

上記目録用データ及びその他のデータ合わせて一〇、一五二件のデータ入力を行った。

また、八七字のJIS外字の作成を行った。

なお、科研費に基づく東京堂書店刊行「假名草子集成」等本文データ作成(約一、五七二万字)を行った。また、断本大系の試行版CD-ROMを作成した。

##### 5 新規システムの導入

特別設備費によって画像データベース研究用システムとして、高解像度画像データベース出力装置の導入を行った。

フルカラープリンタ(キヤノン社製PIXEL EPO)、ルータ(プロテオン社製CNX500)、LAN接続装置(富士通社

製FTEX5100A)及び複合画像情報蓄積システム(ソニー社製CRV光ディスク装置)等による複合システムとして構成される。

##### 6 システム開発

以下のシステム開発を行った。

①本文データベースに関わる既存システム群の改造・機能追加

②本文データベースに関わる無手順クラス端末のサポートシステム

③本文データベース形成のためのデータ記述文法に関する変換システム

##### 7 「国文学とコンピュータ」シンポジウムの開催

平成四年十二月十一日に第四回「国文学とコンピュータ」シンポジウムを開催した。五件の講演とパネル討論が行われた。約一〇〇名の参加があり、活発な質疑があり盛会であった。

##### 8 人文系共同利用機関情報システム連絡会

第八回は当館で開催し、データベースの形成方法と運用について、第九回は国立歴史民俗博物館で開催し、引き続きデータベ



1. スの形成方式と運用について  
意見交換を行った。



第四回「国文学とコンピュータ」シンポジウム

## 研究開発室

藤原教授を中心として、国文学研究資料館の既往の情報処理システムおよび国文学データベースの構築について検証するとともに、国文学研究支援システムおよび国文学データベース等の研究開発の業務実施の現状についての聞き取り、ならびに、今後の研究開発についての研究を実施した。

(研究情報部長)

# 整理・閲覧部事業報告

本田 康雄

創立二十周年にあたる平成四年度も、当部が担当する業務(資料の受入、整理、保存、利用サービス及び参考業務、公開講演会の開催、展示等)は、順調に進展した。

保存用ネガフィルムの外部保管委託は、平成二年度収集分一、五一四リールを追加委託し、総計一九、九〇八リールとなった。例年実施している監査に際しては、監査実施要領に基づき当部から検査員を派遣し、保存用ネガフィルムの保管状況等を検査した。

人事異動では、四月一日付で米澤章雄受入係長が佐賀医科大学図書課長に転出し、鈴木一正情報サービス係長が受入係長に、受入係の高島津雪事務官が情報サービス係長(参考普及係長併任)になった。また、情報サービス係の和田玲子事務官が受入係に、情報サービス係の中村スミ子事務官が情報管理係に、情報管理係の増井ゆう子事務官が情報サービス係に、それぞれ配置換えとなった。

(情報サービス室)

## (1) 資料の受入

平成四年度の受入資料数は、マイクロ資料(ロールフィルム一、五一〇リール、紙焼写真本一、五〇九冊)、図書(二、一〇一冊)、逐次刊行物(三、九四八巻号冊)、雑誌製本(二七三冊)であった。その結果、平成四年度末での全蔵書数は、別表のとおりとなった。

## (2) マイクロ資料の整理

「国文学研究資料館蔵マイクロ資料目録一九九二年」を刊行した。収録書目数は六、九一七点(二〇文庫)である。

## (3) 図書資料の整理等

約二、五〇〇冊の図書(和古書を含む)を整理した。学術情報センター目録システムを利用しての新刊書の目録データ入力を開始した。またOPAC(オンライン利用者目録)サービスの開始に向けてデータ取り込み等の準備を進めた。「国文学研究資料館蔵和古書目録増加5」(過去四年度に整理した三六七点を収録)を刊行した。和古書の補修、帙作成を行った。

(4) 古典作品典拠ファイル作成事業  
読みの付与、著者コントロール作業等を継続し、約五四、〇〇〇件のデータを作成した。累計で約二五一、〇〇〇件となった。

## (5) 古典籍総合目録作成事業

データ作成では、データソース(所蔵目録)からデータシートへの転記作業を約二二、〇〇〇件行い、これまで累積した転記済みデータの中から約八、五〇〇件の点検を完了した。また、データの品質維持、作業効率の観点から、現行の作業方法の見直しを行った。データソースの調査も引き続き行った。

## (6) 閲覧業務

平成四年五月より、職員の完全週休二日制実施に伴い、土曜日を休室とし、平日の閲覧時間は前後三十分ずつ延長した。その結果、開室日数は二二一日と前年度の二七五日を大きく下回ったが、年間の入室者数と文献複写件数は一%増、新規登録者数は九%増加した。入室者は八、八二一人(一日平均三八人)、文献複写は二六、九四九件(一日平均二二七件)、登録者は二、〇七七人(一日平均九人)で、登録者の累計は二八、五五六人に達した。



また、相互利用（郵送による文献複写・貸出）の複写受付は、二、六八一件で、前年度に比べ七%増加、大学図書館等への資料の貸出は、一九件六三九冊であった。なお、例年どおり、四月末から五月初めにかけて資料のくん蒸、三月末には蔵書点検を実施した。平成元年度から始まった当館所蔵原本（写本・版本）のマイクロ化事業第四年目の平成四年度は、約二十八万コマ、九七二点の撮影を実施した。

## (二) 参考室

### (1) 参考業務

日常業務として、参考質問の受付・回答に従事し、参考図書の実と二階閲覧室の参考開架図書の維持・管理にあたった。

### (2) 公開講演会及び展示

国文学の普及業務として、次のとおり公開講演会・展示を開催した。

#### ・公開講演会

第36回（6月20日、於当館）

『源氏物語』と『豊饒の海』——三島由紀夫の古典受容——小西甚一（筑波大学名誉教授）、「日本文学における近代と現代」小田切進（日本近代文学館理事長）。

第37回（10月24日、広島県立生涯学習センター）

「色好みの果て」三角洋一（東京大学教授）、「清少納言の人間関係——記憶力評価の基準——」（放送大学広島ビデオ学習センター長）。

第15回夏期公開講演会「国文学研究——資料と情報——」（7月29日、31日、於当館）

29日「中世の唱導と寺院資料」小峯和明（当館助教）、「文献調査とその資料性——西教寺・正教蔵本を中心に——」伊藤正義（神戸女子大学教授）。

30日「幕藩体制下の能楽——演能記録データベースと江戸時代能楽史——」竹本幹夫（早稲田大学教授）、「江戸の元禄——世間咄風聞集の世界——」長谷川強（昭和女子大学教授）。

31日「景観画像の文学への利用」星野聰（京都大学大型計算機センター教授）、「文献資料との対応」今井源衛（梅光女学院大学客員教授）。

#### ・常設展示

第51回「和書のみまざり」（4月13日、7月3日）

第52回「中世の文学」（7月20日、10月16日）

第53回「近世後期の文学」（12月1日、2月19日）

#### ・特別展示

第20回特別展示「創立二十周年記念特別展示」（11月2日、14日）

なお、第15回夏期公開講演会の筆録集である『国文学研究資料館講演集14 国文学研究——資料と情報——』を刊行し、大学図書館等への寄贈のほか、希望者にも配布している。

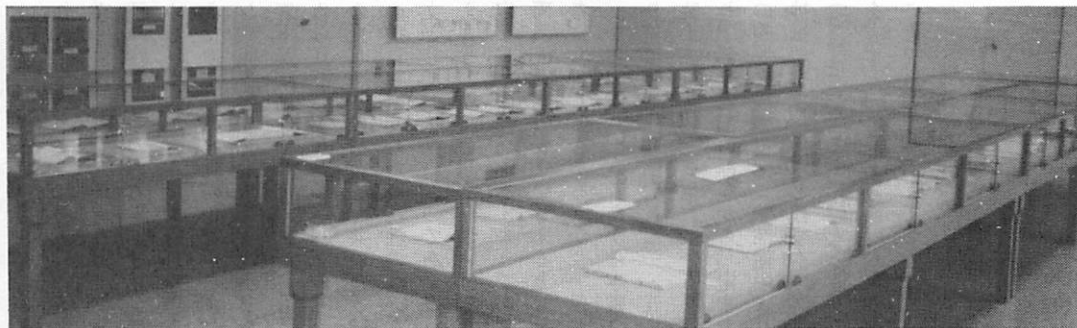
（整理閲覧部長）

## 所蔵資料統計

（平成5年3月末現在）

資料種別	点数	冊（リール）数
マイクロ資料	マイクロフィルム※	111,752点 24,569リール
	マククロフィッシュ	9,136点 31,961枚
	紙焼写真本	56,592冊
図書（古書及び新刊書）	30,628点	86,172冊
逐次刊行物	3,531誌	108,419巻号冊
寄託図書	964点	4,313冊

※他に紙焼写真による収集がある。



展示室

## 新収資料紹介(36)

## 秋篠月清集

新古今歌人後京極摂政藤原良経の家集『秋篠月清集』は定数歌と部類歌との二部よりなり、その諸本は定家本と教家本の二系統に大別される。ここに紹介する『私家集伝本書目』等にも未収録の一本は教家本系に属する定数歌部のみの伝本である。

最初に書誌を記す。折紙綴葉装、一帖。薄茶色紙表紙、縦二・五、横一四・九。無外題。内題は「式部史生秋篠月清集」。料紙は楮紙。四折、墨付七四丁（内一三丁目は補写）、遊紙前後各一丁。咽元にあたる折目外側の下部に「一ノ一」の如くに折と紙数を示す丁付がある。每半葉九行書、歌は一首一行書、詞書三字下げ。字高約一・九。九種（本文第一首目）。室町後期頃の写か。奥書識語は無いが、七六丁裏右下に「主家（書き損じカ）／主宣家（花押）」、裏表紙裏右下にも「主宣家（先と別種の花押）」と本文同筆らしい署名がある。ちなみに「宣家」については未詳

だが、旧蔵者を同じくするらしい館報37号加藤洋介氏紹介の天文二年（一五三三）写「光源氏一部連歌寄合」の筆者「成家」と血縁がある可能性が高い。

先に記したように、本書は内題や各定数歌の呼称他の諸特徴よりして教家本系統に属する一本であることは明白であるが、同系の諸本が皆一致して定数歌部と部類歌部の内題を「式部史生秋篠月清集上（下）」とするのに対し、定数歌部のみ本書には「上」の文字が無い。同様の内題を有するものに両系の混体本とされる太山寺本があるものの、本文的な近さは認められないようである。連歌師周辺に多い装丁であることからして、特定の利用目的や運び易さなどを考慮して部類歌を伴わず単独で書写したのとも考えられるが、後述の如く少なからぬ校合注記を残しながら異本の素性を明示しないのも不審である。あるいは親本が既に端本であったのであろうか。

歌数は初丁の目録末尾に「以上千首」とある通りではあるものの古典文庫本（底本は教家本系の最

善本とされる現在日本大学蔵の伝常縁筆本）の歌番号で一七九―一九三の第一三丁が切除されて後筆別紙によって補われる他、二二九・九九一の二首が同筆で補入されている。また歌順を古典文庫本と比較すると、一五三・一五四、二〇三・二〇四、四六二・四六三、六九一・六九二、九七四・九七五が順逆に、二四四が二五〇の後に位置している。

異本注記の多さは本書の大きな特徴であるが、注記の性格を考え、る上で参考になるものとして、本文最終丁の折目の間に貼付される付箋に記された識語がある。「本校合三度也可秘々々／本云／承久三年十月廿六日書写畢／比合点者前大僧正慈円釈阿入道兩人之点也／不可有他見者也」（補写と同筆力）とあるのがそれで、第一三丁の補写と同筆であろうか。「本云」以下は小異を除いて教家本系諸本下巻に多く見える本奥書の一部であり、校合本の奥書を転写、あるいは本来下冊が存したとすればその奥書をここに補ったとも考えられるが不明。ここで注目した

いのは「校合三度」とある点であり、確かに本文には墨書・付箋墨書・朱書（濃淡二種有るカ）の三種の時期に差のある異本注記が認められるのである。本行自体に古典文庫本との異動が少なからず存し、同筆の注記もまた、片山享・青木賢豪・阿氏の二種の校本にも認められないことが多く、その内容の良し悪しは措いて、共々連歌師の披見し享受した可能性の高い本文として興味深いものであると言えよう。識語と同筆らしい付箋は定家本との校異を示すようであり、両系混交本の成立を考える上で参考になることもあろうか。

なお、同じ旧蔵者ながら本書より後筆で寸法（二七×二一・五）装丁（包背装・縹色表紙）も異なり、部類歌部のみながら、定家本の内題に混交本文（旅部途中より神祇部まで脱落）と教家本の奥書（河野信一記念文化館本に同じ）を有する一本も、当館蔵となったことを併せて報告しておく。

（研究情報部 佐々木孝浩）

## 利用者へのお知らせ

## ◆新指定貴重書

受入図書の中から特に資料的価値が高いと認められるものを選んで、貴重書に指定していますが、このたび次の資料が新たに貴重書に指定されました。これにより貴重書は計七十七点になりました。

・『文正草子』（写・奈良絵本）

## ◆貴重書等の閲覧について

貴重書、特別コレクション、寄託資料については、別置して、一般資料と区別し、取扱いを慎重にしています。閲覧の際は、あらかじめ「貴重書等閲覧許可願」に所要の事項を記入（押印）して提出し許可を得てください。損傷の程度が著しいものについては、資料保全の必要上、許可できない場合もありますのでご理解ください。

なお、これらの資料は、原本保存のためマイクロフィルム化しています。大部分のものは、紙焼写真本があり、これは一般資料として閲覧できます。

## （一）貴重書

貴重書等の種類と請求記号  
99/1/77

## （二）特別コレクション

①国学者自筆稿本等 81/1/72  
大部分は国民精神文化研究所旧蔵

②初雁文庫 12/1/746  
故西下経一氏の古今集を中心とするコレクション

③諸大名著作 82/1/137  
福井久蔵氏旧蔵

## （三）寄託資料

①久松潜一氏蔵書 11/1/54、56、130  
歌論書

②金子元臣氏蔵書 13/1/6  
室町期物語

③武者小路家資料 14/1/6  
『柿本人麿像』二幅ほか

④田安德川家資料 15/1/823  
田安宗武著作物類、田安家日誌、日記・記録、国文学等

## ◆寄贈資料紹介

故守随憲治博士のノート、草稿類が守随家より一括寄贈されています。『守随憲治ノート・草稿集』（大正九、昭和五十二年、七箱と額一枚）という書名で整理してあります。請求記号はユ1/7です。

内容は「受講ノート」（東京帝国大学文学部国文科在学時筆写、大正九、十一年、二十一冊）、「講義ノート」（竹田出雲の研究、竹本座浄瑠璃史、歌舞伎脚本総論、昭和十一、十七年、十一冊）、「講義ノート」（浄瑠璃史、近代演劇史、脚色論、昭和八、二十四、二十五、五年）、その他小論文や随筆原稿などです。

## ◆マイクロ資料目録の市販について

『国文学研究資料館蔵マイクロ資料目録』は、発行部数が少ないため、一部の機関にしか配布できないのが現状です。そこで、縮刷版を別途刊行し市販しています。第十五冊目の一九九一年版が、今年二月に発行されました。（定価五、五〇〇円、笠間書院刊）

## ◆来館利用の皆様へお願い

毎年、七月下旬から十二月上旬頃まで利用者が大変多く、場合によっては、入室や文献複写申込受付を制限させていただくこともありますので、あらかじめご了承ください。

また、年間を通して、午後になると混み合う傾向がみられます。特に文献複写を申し込まれる場合は、午前中の方が比較的短い時間で対応することが出来ます。

是非、すいている時間帯にご利用ください。よろしくお願いいたします。

## （一）閲覧時間

九時～十七時

## （二）複写受付時間

九時三十分～十五時三十分

## （三）資料請求受付時間

九時三十分～十二時、十三時～十六時三十分

## （四）休室日

①日曜日、土曜日、祝日、振替休日

②毎月末日（日・土の場合は直前の金曜日）

③資料くん蔡期間（四月末～五月にかけて五日間）

④年末年始（十二月二十七日～一月五日）

⑤蔵書点検期間（三月二十五日～三月三十一日）

⑥その他

## 彙報

## 委員会誌

平成5年

5月14日 国文学文献資料収集

5月25日 計画委員会(第一回)

5月29日 国文学文献資料調査

6月29日 自己点検・評価委員

7月13日 文獻目録委員会(第

7月14日 共同研究委員会(第

8月19日 国際日本文学研究

9月13日 文獻目録委員会(第

評議員会の開催について

本年度第一回評議員会が平成五

年七月二十日(火)に開催され、

議事は、国文学研究資料館名譽教

授の承認、管理運営の概況、平成

四年度事業報告及び平成六年度概

算要求について評議が行われた。

運営協議会の開催について

本年度第一回運営協議会が平

成五年六月十八日(金)に開催さ

れ、議事は、国文学研究資料館名

譽教授の候補者、管理運営の概況、

平成四年度事業報告及び平成六年

度概算要求について協議が行われ

た。

外国出張

原 正一郎

度概算要求について協議が行われ

た。

外国出張

原 正一郎

渡航先

目的

期 間

松野 陽一

新藤 協三

樹下 文隆

辻本 裕成

渡航先

目的

期 間

佐竹 昭廣

渡航先

目的

期 間

安藤 正人

渡航先

目的

期 間

鈴木 淳

渡航先

目的

期 間

安藤 正人

渡航先

目的

期 間

鈴木 淳

安藤 正人

渡航先

目的

期 間

鈴木 淳

渡航先

目的

期 間

安藤 正人

渡航先

目的

期 間

鈴木 淳

渡航先

目的

期 間

安藤 正人

渡航先

目的

期 間

鈴木 淳

渡航先

目的

期 間

安藤 正人

渡航先

目的

期 間

鈴木 淳

渡航先

目的

日本古典籍の調査と

整理のため

平成5年8月1日

平成5年9月30日

国文学研究資料館永年勤続者表彰

国文学研究資料館永年勤続者表

彰規程に基づき、次の方に表彰状

を授与し、記念品として銀盃を贈

呈した。

○平成5年3月31日付

鶴岡實枝子(史料館教授)

○平成5年5月1日付

小山弘志(前館長)

鈴木一正(整理閲覧部情報サ一

和室受入係長)

和室受入係長)

和室受入係長)

和室受入係長)

和室受入係長)

和室受入係長)

和室受入係長)

和室受入係長)

和室受入係長)

和室受入係長)

和室受入係長)

和室受入係長)

和室受入係長)

和室受入係長)

和室受入係長)

和室受入係長)

和室受入係長)

## 国文学研究資料館評議員

任期 平成4年7月1日～平成6年6月30日

秋山 慶 駒沢女子大学人文学部教授、東京大学名誉教授

網野 善彦 神奈川大学短期大学部教授

有馬 朗人 理化学研究所理事、東京大学名誉教授

井内 慶次郎 (財)放送大学教育振興会会長

稲賀 敬二 放送大学客員教授、広島ビデオ学習センター長

猪瀬 博 学術情報センター所長、東京大学名誉教授

今井 源 衛 梅光女学院大学文学部客員教授、九州大学名誉教授

京極 純一 国際交流基金日本国際センター所長、東京大学名誉教授

小玉 正任 国立公文書館顧問

小林 清治 東北学院大学文学部教授、福島大学名誉教授

田中 裕 大阪大学名誉教授

堤 精二 放送大学附属図書館長・教授、お茶の水女子大学名誉教授

坪井 清足 (財)大阪文化財センター理事長

秀村 選三 久留米大学比較文化研究所教授、九州大学名誉教授

尾藤 正英 川村学園女子大学文学部教授、東京大学名誉教授

藤澤 令夫 京都国立博物館長、京都大学名誉教授

山田 俊雄 成城大学長

## 国文学研究資料館運営協議員

任期 平成4年8月1日～平成6年7月31日

朝尾 直弘 京都大学附属図書館長・文学部教授

有吉 保 日本大学文学部教授

伊藤 正義 神戸女子大学文学部教授、大阪市立大学名誉教授

石井 進 国立歴史民俗博物館長、東京大学名誉教授

大口 勇次郎 お茶の水女子大学文学部教授

久保田 淳 東京大学文学部教授

枋尾 武 成城大学文学部教授

日野 龍夫 京都大学文学部教授

平澤 五郎 慶應義塾大学附属研究所近文庫教授

水谷 静夫 (財)計量計画研究所理事

新井 栄蔵 国文学研究資料館教授(研究情報部長)

丑木 幸男 国文学研究資料館教授(史料館)

岡 雅彦 国文学研究資料館教授(文庫資料部)

新藤 協三 国文学研究資料館教授(文庫資料部)

鈴江 英一 国文学研究資料館教授(史料館)

本田 康雄 国文学研究資料館教授(整理閲覧部長)

松野 陽一 国文学研究資料館教授(文庫資料部長)

森 安彦 国文学研究資料館教授(研究情報部)

安永 尚志 国文学研究資料館教授(史料館)

## 国文学文献資料収集計画委員会委員

任期 平成4年4月1日～平成6年3月31日

奥田 勲 聖心女子大学文学部教授

片桐 洋 関西大学文学部教授

白石 梯三 福岡大学文学部教授

長友 千代治 京都府立大学文学部教授

名和 修 (財)陽明文庫館長

任期 平成5年4月1日～平成7年3月31日

麻原 美子 日本女子大学文学部教授

久保木 哲夫 都留文科大学文学部教授

徳江 元正 国学院大学文学部教授

真鍋 俊照 神奈川県立金沢文庫副館長

渡邊 守邦 実践女子大学文学部教授

## 文献目録委員会委員

任期 平成4年4月1日～平成6年3月31日

池内 輝雄 筑波大学文芸・言語学系教授

掛斐 高 成城大学文学部教授

遠藤 宏 成城大学文学部教授

久保田 淳 東京大学文学部教授

小島 孝之 立教大学文学部教授

小町谷 照彦 東京学芸大学教育学部教授

瀬戸 仁 中央学院大学法学部教授

滝藤 満義 横浜国立大学教育学部教授

野山 嘉正 東京大学文学部教授

原 道生 明治大学文学部教授

安田 尚道 青山学院大学文学部教授

## 共同研究委員会委員

任期 平成4年4月1日～平成6年3月31日

稲賀 敬二 放送大学広島ビデオ学習センター長(客員)

曾倉 岑 青山学院大学文学部教授

鳥越 文藏 早稲田大学文学部教授

中野 三敏 九州大学文学部教授

水原 一 駒澤大学文学部教授

## 情報処理システム運用委員会委員

任期 平成4年4月1日～平成6年3月31日

石田 晴久 東京大学大型計算機センター教授

稲岡 耕二 上智大学文学部教授

井上 如 学術情報センター教授

島村 隆夫 国立国会図書館総務部情報処理課長

杉田 繁治 国立民族学博物館第5研究部教授

土田 衛 佛教大学文学部教授

照井 武彦 国立歴史民俗博物館情報資料研究部教授

西村 恕彦 東京農工大学工学部教授

濱田 啓介 京都大学総合人間学部教授

星野 聡 京都大学大型計算機センター教授

堀内 秀晃 青山学院大学文学部教授

水谷 静夫 (財)計量計画研究所理事

村上 學 名古屋工業大学工学部教授

## 国際日本文学研究集会委員会委員

任期 平成4年4月1日～平成6年3月31日

アラン・ジュベール 清泉女子大学文学部教授

衆川 光樹 明治学院大学国文学部教授

芳賀 徹 国際日本文化研究センター教授

平岡 敏夫 群馬県立女子大学長

福田 秀一 国際基督教大学教養学部教授

山下 宏明 名古屋大学文学部教授

## 古典籍総合目録委員会委員

任期 平成5年4月1日～平成7年3月31日

浅野 次郎 東京大学附属図書館事務部長

柴田 光彦 跡見学園女子大学文学部教授

堤 精二 放送大学教授

馬場 萬夫 国立国会図書館図書古典籍課課長

益田 宗 国立歴史民俗博物館歴史研究部教授

森川 彰 梅花女子大学文学部教授

## 国文学文献資料調査員

任期 平成5年4月1日～平成6年3月31日

## 〔北海道・東北〕

石井 行雄 北海道教育大学教育学部国語校助手

臼田 昭吾 弘前大学人文学部教授

加藤 幸一 奥羽大学文学部助教授

菊地 仁 山形大学人文学部助教授

志立 正知 山形県立米沢女子短期大学助教授

寺島 恒世 山形大学教育学部助教授

永田 信也 北海道教育大学教育学部旭川校助教授

原田 貞義 東北大学大学院国際文化研究科教授

播摩 光寿 国学院短期大学教授

## 〔関東〕

青柳 隆志 東京成徳短期大学講師

市古 夏生 お茶の水女子大学文芸学部助教授

稲田 篤信 東京都立大学人文学部助教授

岩田 秀行 跡見学園女子大学文学部助教授

岡中 正行 帝京女子短期大学助教授

鈴木 健一 茨城大学人文学部助教授

鈴木 俊幸 中央大学文学部助教授

田中 大士 文部省初等中等教育局教科書調査官

得丸 智子 日本学術振興会特別研究員

藤田 洋治 東京成徳短期大学助教授

堀川 貴司 東京大学文学部助手

山下 琢巳 東京成徳短期大学講師

## 〔中部〕

石坂 妙子 新潟大学教育学部助教授

大西 紀夫 富山女子短期大学講師

加藤 洋介 愛知県立女子短期大学講師

神谷 勝広 名古屋文理短期大学講師

木越 治 金沢大学教養部助教授

黒田 彰 愛知県立大学文学部助教授

沢井 耐三 愛知大学文学部教授

塩村 耕 相山女子短期大学助教授

鈴木 孝庸 新潟大学教養部教授

須田 悦生 静岡県立大学短期大学部教授

高木 元 愛知県立大学文学部助教授

太刀川 清 長野県短期大学教授

玉城 司 清泉女子短期大学助教授

鶴橋 俊宏 静岡県立大学短期大学部講師

西村 聡 金沢大学文学部助教授

服部 仁 同朋大学文学部教授

深澤 真二 和光大学文学部講師

安田 徳子 聖徳学園岐阜教育大学教育学部助教授

## 〔近畿〕

柳澤 良一 金沢女子大学文学部教授

綿拔 豊昭 富山女子短期大学助教授

安達 敬子 京都府立大学女子短期大学部講師

大高 洋司 甲南女子大学文学部助教授

大谷 俊太 南山大学文学部助教授

日下 幸男 大阪市立都島第二工業高等学校教諭

中西 健治 相愛大学人文学部教授

藤田 眞一 京都府立大学女子短期大学部教授

藤平 泉 神戸女子大学文学部助教授

光田 和伸 武庫川女子大学文学部助教授

三村 晃功 光華女子大学文学部教授

森田 雅也 関西学院大学文学部講師

## 〔中国・四国〕

會田 実 四国大学短期大学部講師

蘆田 耕一 島根大学法文学部教授

飯倉 洋一 山口大学教養部助教授

石川 一 広島女子大学文学部教授

井出 幸男 高知大学教育学部助教授

久保田 啓一 梅光女子短期大学文学部講師

竹村 信治 広島大学教育学部助教授

田村 憲治 愛媛大学法文学部教授

中川 博夫 徳島大学総合科学部助教授

松原 秀明 金刀比羅宮図書館嘱託

宮田 尚 梅光女子短期大学文学部教授

## 〔九州〕

井上 敏幸 福岡女子大学文学部教授

今井 明 福岡女子大学文学部助教授

小川 豊生 鹿児島女子大学文学部助教授

ロバート・キャンベル 九州大学文学部講師

園田 豊 北九州大学文学部助教授



山田 洋嗣 福岡大学人文学部助教授  
若木 太一 長崎大学教養部教授

### 国文学研究情報研究専門員

任期 平成5年4月1日～平成6年3月31日

青木 周平 国学院大学文学部助教授  
青山 毅 元国国女子大学文学部助教授  
鈴木 豊 文京女子短期大学助教授  
高木 まさき 文部省初等中等教育局教科書調査官  
辻 勝美 日本大学文学部助教授  
前田 雅之 東京女子短期大学助教授  
宮崎 修多 成城大学文芸学部講師  
唐沢 正実 鷺宮高等学校教諭  
竹本 幹夫 早稲田大学文学部教授  
山口 明穂 東京大学文学部教授

任期 平成5年8月1日～平成6年3月31日

内田 保廣 共立女子大学文芸学部助教授  
久保木 哲夫 都留文科大学文学部教授  
深澤 真二 和光大学人文学部講師

### 共同研究員

任期 平成5年4月1日～平成6年3月31日

課題名「軍記物語の伝本についての研究」

長谷川 端 中京大学文学部教授  
加美 宏 同志社大学文学部教授  
日下 力 早稲田大学文学部教授  
長坂 成行 奈良大学文学部教授  
野中 哲照 鹿児島短期大学講師  
牧野 和夫 実成女子大学文学部教授

課題名「情報処理システムの和歌文学への応用に関する研究」

戸谷 精三 長野工業高等専門学校助教授  
服部 一枝 日本橋女子短期大学・高等学校教諭  
半田 志郎 長野工業高等専門学校助教授

課題名「文学及び古典テキストのデータベース開発とその利用のための基礎的研究」

長瀬 真理 城西国際大学経営情報学部助教授  
アンドルー・アーマー 慶應義塾大学文学部助教授  
内田 保廣 共立女子大学文芸学部助教授  
フィリップ・ハリーズ オックスフォード大学・クイーンズカレッジ教授  
マイケル・ワトソン 明治学院大学国際学部助教授

課題名「室町時代における万葉集研究」

岩下 武彦 東京女子大学文学部助教授  
石 神秀美 鶴見大学文学部非常勤講師  
江富 範子 京都女子大学短期大学部講師  
杉田 昌彦 東京大学大学院博士課程  
千艘 秋男 東洋大学文学部助教授  
深澤 真二 和光大学人文学部講師

課題名「仁和寺守覚法親王の儀礼と学問・芸能に関する研究」

山本 吉左右 和光大学人文学部教授  
阿部 泰郎 大手前女子大学文学部助教授  
小島 裕子 東京都立大学大学院博士課程  
菅野 扶美 東横学園女子短期大学講師  
関口 静雄 昭和女子大学文学部助教授  
田中 貴子 梅花女子大学文学部助教授  
松尾 恒一 横浜翠嵐高等学校教諭

課題名「寛永期版本の序跋」

江本 裕 大妻女子大学短期大学部教授  
深沢 秋男 昭和女子大学短期大学部助教授  
柳沢 昌紀 慶應義塾大学大学院博士課程  
渡邊 守邦 実践女子大学文学部教授

課題名「近世前期故事・説話索引作成を目的とする文献資料の総合的研究と説話収集」

西田 耕三 熊本大学教養部教授  
入口 敦志 九州大学文学部助手  
堤 邦彦 京都精華大学人文学部助教授  
花田 富一夫 大妻女子大学短期大学部助教授  
福田 安典 大阪大学文学部助手

任期 平成5年5月1日～平成5年6月25日  
平成5年9月27日～平成5年12月12日

課題名「日本文学の特質——中世小説にあらわれる女性と神仏信仰——」

バーバラ・ルーシュ 国文学研究資料館客員教授  
石川 力山 駒澤大学仏教学部教授  
今井 雅晴 茨城大学人文学部教授  
勝浦 令子 東京女子大学文学部助教授  
千野 香織 学習院大学文学部助教授  
徳田 和夫 学習院女子短期大学教授  
中野 真麻理 成城大学民俗学研究所研究員  
真鍋 俊照 神奈川県立金沢文庫副館長

### 自己点検・評価委員会委員

任期 平成5年4月1日～平成7年3月31日

有吉 保 日本大学文学部教授  
大口 勇次郎 お茶の水女子大学教育学部教授  
平澤 五郎 慶應義塾大学附属研究所所長

発令年月日	氏 名	異動内容（新官職）	旧（現）官職等
5. 4. 1	中 村 洋 一	会計課総務係長	会計課経理係長
〃	三 浦 孝 樹	会計課経理係長	東京大学医学部附属病院分院 医事掛長
〃	添 田 勉	会計課用度係長	会計課用度係用度主任
〃	高 田 範 夫	会計課管財係長	東京大学経理部管財課管財第三掛 主任
〃	前 田 哲 男	会計課情報処理係長	東京大学先端科学技術研究センタ ー経理掛主任
〃	高 橋 努	情報サービス室情報管理係長	東京大学附属図書館総務課システ ム管理掛
〃	歌 野 博	情報サービス室情報整備係長	情報サービス室情報管理係長
〃	椎 名 則 之	庶務課人事係人事主任	東京学芸大学庶務部人事課職員係
〃	新 藤 正 夫	会計課用度係用度主任	東京大学海洋研究所経理課船舶掛
〃	岩 崎 光 二	会計課経理係	会計課総務係
〃	神 谷 真 司	会計課用度係	会計課経理係
〃	柳 澤 武	会計課管財係	東京工業大学施設部建築課第3工 営掛
〃	戸 田 加代子	情報サービス室情報整備係	情報サービス室情報管理係
〃	佐 藤 崇	会計課情報処理係（採用）	
〃	小 林 芳 夫	香川大学経理部主計課長	会計課長
〃	益 田 義 孝	東京学芸大学附属図書館情報サー ビス課長	情報サービス室長
〃	正 木 忠 夫	東京大学庶務部庶務課課長補佐	庶務課課長補佐
〃	千 葉 勝 志	東京大学経理部経理課課長補佐	会計課課長補佐
〃	杉 村 聖 治	東京大学医学部附属病院総務課人 事掛長	庶務課共同利用係長
〃	目 鳥 繁 行	京都大学ヘリオトロン核融合研究 センター会計掛長	会計課用度係長
〃	佐々木 良 己	東京大学経理部情報処理課専門職 員	会計課情報処理係長
〃	伊勢崎 満	東京学芸大学庶務部庶務課企画調 査・学術係長	庶務課人事係人事主任
〃	石 原 栄 一	学術情報センター事業部データベ ース課調査係調査主任	会計課情報処理係情報処理主任
〃	勝 又 守	東京大学経理部主計課（同日付文 部省大臣官房政策課企画審議係併 任）	会計課用度係
〃	富 田 善 公	東京工業大学施設部建築課第1工 営掛	会計課管財係
5. 7. 1	三 浦 弘 三	会計課総務係総務主任	会計課総務係

## 人事異動 (平成5年3月～平成5年8月)

## 【館 長】

発令年月日	氏 名	異動内容 (新官職)	旧 (現) 官職等
5. 4. 1	小 山 弘 志	(任期満了退職) 5.3.31 限り任期満了退職 (採用、命)	館長
5. 4. 1	佐 竹 昭 廣	館長、史料館長事務取扱 (免)	(成城大学文芸学部教授)
5. 8. 1	佐 竹 昭 廣	史料館長事務取扱	館長

## 【教 官】

発令年月日	氏 名	異動内容 (新官職)	旧 (現) 官職等
5. 3. 31	深 澤 真 二	(辞 職) 辞職 (和光大学人文学部講師)	文献資料部助手
5. 4. 1	鶴 岡 實枝子	(停年退職) 5.3.31限り停年退職 (採 用)	史料館教授
5. 4. 1	鈴 江 英 一	史料館教授	(北海道文書館資料課公文書係長)
〃	和 田 恭 幸	文献資料部助手	
〃	福 田 千 鶴	史料館助手	
〃	廣 瀬 睦	史料館助手	
〃	杉 谷 寿 郎	文献資料部客員教授 (6.3.31まで)	
〃	藤 原 鎮 男	研究情報部客員教授 (6.3.31まで)	
〃	馬 淵 久 夫	史料館客員教授 (6.3.31まで)	
5. 4. 1	渡 辺 尚 志	(昇 任) 一橋大学社会学部助教授	史料館助手
〃	大 友 一 雄	史料館助教授	史料館助手
5. 4. 1	大 藤 修	(転 任) 東北大学文学部助教授	史料館助教授
5. 4. 1	森 安 彦	(併 任) 史料館史料管理研究室長	史料館教授
〃	天 野 文 雄	文献資料部助教授 (5.9.30まで)	大阪大学文学部助教授
5. 8. 1	森 安 彦	史料館長	史料館教授

## 【事務系職員】

発令年月日	氏 名	異動内容 (新官職)	旧 (現) 官職等
5. 4. 1	三 上 智	会計課長	文部省教育助成局海外子女教育課 教職員派遣係長
〃	金 原 貴 洋	情報サービス室長	福井医科大学教務部図書課長
〃	伊 達 孝 臣	庶務課課長補佐	東京大学宇宙線研究所総務主任
〃	黒 瀧 裕	会計課課長補佐	会計課総務係長
〃	小 関 仁 志	庶務課共同利用係長	会計課管財係長

# 平成5年度 秋季学会

①事務局 ②学会開催日 ③会場

解釈学会 ①〒101千代田区神田神保町2-46 教育出版センター内03-5394-1203 ②8月5・6日 ③島根県立女子短期大学

歌舞伎学会 ①〒169新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学演劇博物館内03-3203-4141内71-5218 ②11月28日 ③早稲田大学

脚点語学会 ①〒192-03八王子市東中野742-1 中央大学文学部国文学研究室内0426-74-3789 ②10月29日 ③北海道大学学術交流会館

芸能史研究会 ①〒606京都市左京区浄土寺真如町77紫雲荘6号室075-781-8718 ②12月4日 ③国立能楽堂

計量国語学会 ①〒167杉並区善福寺2丁目 東京女子大学3号館118号室03-3395-1211内線339 ②9月25日 ③愛知淑徳大学

国語学会 ①〒113文京区本郷7-3-1 東京大学文学部国語研究室内03-3812-2111 ②10月30・31日 ③北海道大学

説話・伝承学会 ①〒602京都市上京区今出川通烏丸東入 同志社大学国文学研究室内075-251-3421 ②11月20・21日 ③阪南大学

説話文学学会 ①〒228相模原市文京2-2-1 相模女子大学学芸学部国文学科0427-42-1411 ②9月25日 ③学習院大学

全国大学国語教育学会 ①〒305つくば市天王台1-1 筑波大学教育学系人文科教育学研究室内0298-53-6733 ②10月21・22日 ③盛岡劇場と岩手大学教育学部附属中・小学校  
全国大学国語国文学会 ①〒101千代田区猿楽町2-2-6 畑山ビル (株)おうふう気付03-3294-0857 ②11月3～15日 ③同朋大学

中古文学会 ①〒156世田谷区桜上水3-25-40 日本大学理学部国文学研究室内03-3329-1151 ②10月9・10日 ③山形大学

中世文学会 ①〒154世田谷区駒沢1-23-1 駒澤大学文学部国文学研究室内03-3418-9240 ②10月3・17・18日 ③立命館大学

日本演劇学会 ①〒169新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学演劇博物館内03-3203-4141内71-5218 ②10月30日 ③帝塚山大学

日本音声学会 ①〒110台東区東上野3-25-6若洋社ビル5F 03-3839-3957 ②9月25・26日 ③群馬県立女子大学

日本歌謡学会 ①〒630奈良市高畑町 奈良教育大学真鍋研究室0742-27-9153 ②10月23・24日 ③糸魚川市市民会館

日本近世文学会 ①〒171豊島区目白1-5-1 学習院大学日本語日本文学科諏訪春雄研究室内03-3986-0221内5766 ②11月13・14日 ③大阪市立大学

日本近代文学会 ①〒156世田谷区桜上水3-25-40 日本大学文理学部国文学研究室内03-3329-1151 事務取扱①〒113文京区弥生2-4-16 学会センタービル日本学会事務センター内03-3817-5801 ②10月23・24日 ③福島大学

日本国語教育学会 ①〒112文京区大塚3-29-1 日本教育研究連合会第3研究室内03-3941-3420 ②8月7・8日 ③国立教育会館

社団法人 日本語教育学会 ①〒107港区赤坂1-8-10第9興和ビル内03-3584-4872～3 ②10月2・3日 ③姫路獨協大学

日本児童文学学会 ①〒182調布市緑ヶ丘1-25 白百合女子大学児童文化研究室気付03-3326-6910 ②11月6～8日 ③鳥取大学及び鳥取県民文

化会館

日本社会文学会 ①〒102千代田区富士見2-17-1 法政大学文学部西田勝研究室内03-3264-9751 ②11月13～15日 ③盛岡市中央公民館

日本文学協会 ①〒170豊島区南大塚2-17-10 03-3941-2740 ②11月20・21日 ③横浜市立大学

日本文学風土学会 ①〒214川崎市多摩区東三田2-1-1 専修大学文学部国文学科内044-911-1036 ②11月27・28日 ③専修大学

日本文芸研究会 ①〒980仙台市青葉区川内 東北大学文学部国文学研究室内022-222-1800内2503 ②11月上旬 ③東北大学

日本文体論学会 ①〒110台東区下谷1-5-34 三修社内03-3842-1711 ②11月20・21日 ③姫路獨協大学

日本方言研究会 ①〒192-03八王子市南大沢1-1 東京都立大学国語研究室内 日本方言研究会幹事0426-77-2135 ①〒115北区西ヶ丘3-9-14 国立国語研究所気付日本方言研究会幹事03-3900-3111 ②10月9日 ③北海道大学

仏教文学会 ①〒603京都市北区小山上総町22 大谷大学文学部片岡研究室内075-432-3131 ①〒157世田谷区成城6-1-10成城大学文芸学部伊藤博之研究室内03-3482-1181 ②5月29～31日 ③成城大学(年1回)

萬葉学会 ①〒558大阪市住吉区杉本3-3-138 大阪市立大学文学部国語国文学研究室内06-605-2413～4 ②10月23～26日 ③共立女子大学八王子校舎

美夫君志会 ①〒466名古屋市中区八事本町101-2 中京大学文学部国文学研究室内052-832-2151～2

紫式部学会 ①〒230横浜市鶴見区鶴見2-1-3 鶴見大学文学部日本文学科研究室内045-581-1001内242 ②12月4日 ③学習院大学

和歌文学会 ①〒102千代田区三番町12 大妻女子大学国文学研究室内03-5275-6028 ②10月23～25日 ③弘前大学

和漢比較文学会 ①〒468名古屋市中天白区高宮町1302 名古屋女子大学日本文学科野崎研究室内052-801-1133 ②11月13～15日 ③徳島文理大学

印刷所 株式会社 三協社

電話(三七八五)七二二(代)

郵便番号 一四二

東京都品川区豊町一六〇

国文学研究資料館

編集・発行者

平成五年九月発行

国文学研究資料館報

第四十一号